

日本大学法学部

「西欧政治思想史」
「西欧政治思想史I」

杉本 竜也

【第2回講義のテーマ】
西洋政治思想の目指したものの
個人と共同体

西洋政治思想の源流

古代ギリシアの国家形態

都市国家「ポリス」 (polis)

- 平等な**市民**によって構成された共同体
 - 言論（議論）による政治参加
 - 市民による防衛
- ※ただし、市民として認められるのは成人男性のみであり、女性や奴隷は政治から排除されていた。

ギリシア思想の根本概念

「自然」 (physis ピュシス)

人間の力が影響しないもの

↑↓
「人為」 (nomos ノモス)

人間の力によって生み出されるもの
例) 政治・法律・制度・文化・技術

→ ポリスは、個人としての市民の
人為によって成立する共同体

⇒ 政治や社会に参加すること = 自由

中世の政治思想の中核

キリスト教（特にカトリック）

- ・ 唯一絶対神に対する信仰
→政治思想等の社会規範は、時代や地域に限定されたものではなく、全世界・全時代に通用する。
- ・ 被造物（人間等）に対する神の優位
→神の世界と人間の世界は完全に区別され、人間には神に服従する義務がある。
⇒君主に対するローマ教皇の優位

近代国家の成立

絶対王政 (absolute monarchy)

- ・ 教会勢力からの自立
- ・ 貴族等の国内有力者の抑制
- ・ 国内経済の促進 (自由な取引等)
- ・ 国外に対抗



王権神授説

(the divine right of kings)

君主の正統性は、直接神に由来する
対内的絶対性と対外的自立性の確立

主権概念の成立

宗教改革によって生じた国内対立
外国勢力との対立や戦争



「主権」 (sovereignty)

対内的絶対性と対外的自立性の根拠

- ・ 法・・・主権者を持つ者の命令
- ・ 命令の善悪は問題としない

(ボダンJean Bodin (1530-1596))

⇒政治思想の課題：

“誰が主権者になるべきなのか？”

社会契約説 (Social Contract)

- ・ 社会は、自由な市民が相互に結ぶ契約によって成立する。
- ・ 支配者が正統性を持つのは、社会からの要請に応える場合のみ。



自由な市民の自発的な意思によって、
統治 = 共同体は成立する。

(神× 教会× 国王× 伝統×)

⇒ **主権者は市民** 近代国家のモデル

ポスト市民革命の政治思想

自由主義 (Liberalism)

①君主に対する警戒 → 市民革命

②絶対的な権力全体に対する警戒

絶対的な権力を市民が握った場合、
市民も警戒の対象となる。

→自由主義は、デモクラシーを
否定する思想ではなく、より
洗練させる思想。

(19世紀 トクヴィル、ミル)

自由主義 (Liberalism)

③ 危害原理 (harm principle)

J.S.ミル

人間に干渉できるのは、その人間が他人に危害を加える場合のみ。



誰からも干渉されず、自分の考えや行動を妨げられない = (近代的) 自由

社会問題（貧困）の発生

① 社会主義・共産主義

資本主義の抑制もしくは否定

② 修正資本主義・福祉国家

資本主義を前提として、部分的に修正・改善を目指す

⇒健康で、文化的な生を送ることが可能な状態 = 自由

西洋政治思想の理想

「自由」

英語 : freedom / liberty

フランス語 : liberté

ドイツ語 : Freiheit

西洋政治思想における「自由」

①積極的自由 (positive freedom)

政治や社会に積極的に参加すること。

②消極的自由 (negative freedom)

誰からも干渉されず、自分の考えや行動が妨げられないこと。

③社会権的自由

健康で、文化的な生を送ることが可能な状態。

⇒ 「自由」の意味は、時代や社会状況に応じて大きく異なる。

「自由」を問うこと



「共同体」を問うこと



政治学・政治思想の課題

“個人の自由を守りつつ、社会秩序を維持するにはどうしたらいいのか？”

- ①積極的自由 …… 参政権
- ②消極的自由 …… 自由権
- ③社会権的自由 …… 社会権

日本大学法学部

「西欧政治思想史」
「西欧政治思想史I」

杉本 竜也